

オランダ・イギリス研修

2025/2/26~3/9

目的：オランダ・英国における様々な保健医療サービスの政策・展開について学習する。

学生：7名（看護5名、理学1名、作業1名）

教員：2名



【助産師クリニック】

助産師が主体となって、妊娠中から産後の母子を地域で支えることを学びました。



【助産師家庭訪問同行】

生後1週未満の家庭へ。助産師とクラムゾルフの連携、家族との信頼関係の強さを実感しました。



【Candlelighters】

小児がんの子どもとその家族へサポートを提供するチャリティー団体を訪ね、支援内容や病院との連携について学びました。



【認知症カフェ】

黒色人種、少数民族の認知症の患者と家族に様々なサービスを提供するチャリティー団体です。サービス内容や地域内の繋がりを学びました。



【Sick Children's Trust, Guilford Home】

Great Ormond Street Hospitalに入院している子どもの家族を支援する団体です。家族に快適な滞在場所を提供し、日常的なサポートを行っていることが分かりました。



【サックレイ医学博物館】

匂い付きの展示や19世紀頃に使われていた医療器具等の展示、また切断に関する映像等もあり、見て聞いて嗅いで五感を使いながら、医学・医療の歴史や発展について学ぶことが出来ました。



【ナイチンゲール博物館】

ナイチンゲールが使用していた白衣、クリミア戦争で使用していたものなどを実際に見ることができました。また、クリミア戦争での衛生管理、統計学についての業績の展示品を見ることができ、看護の歴史・看護師の役割を学ぶことが出来ました。



【ゴッホ美術館】

アムステルダムにあるゴッホ美術館に行きました。ゴッホの作品を専門に展示しておりここでしか見られない6枚目の「ひまわり」などを見ることができました。絵画だけでなく、ゴッホの手紙や彼に影響を与えた人物の作品も収蔵されています。



【ロンドブリッジ・ビッグベン】

ロンドブリッジは、周囲のビル群とともにロンドンの都会的な雰囲気を感じられる場所で、テムズ川を見ながら散歩することができました。近くにはロンドンアイやビッグベンもあり、実際に間近で見ると、その壮大さに圧倒されました。